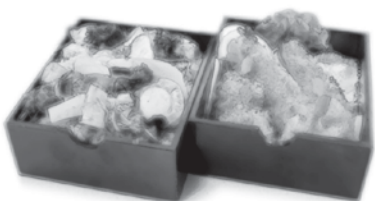




季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三十五号〜

小満 しょうまん
五月二十一日



重箱

気持ちの良い季節となりました。なんでも五月十六日は「旅の日」だとか。俳聖、松尾芭蕉が「奥の細道」へ旅立ったのが元禄二年（一六八九）の旧暦三月二十七日、今の暦ではこの日にあたるからだそうです。江戸を立った芭蕉さんは、ちようど今頃は日光参りをすませ、那須へ向かうあたり。芭蕉さんでなくとも、新緑に染まる野や山へ、ちよつと出かけたくなる季節です。

重箱というとお正月のおせち用と思いがちですが、重箱をもつての行楽も格別の趣があります。漆の上品な色合いが、おむすびや料理を彩り豊かに引き立ててくれるのです。お弁当をワンランク上げてくれる重宝な道具ということを知りました。

古老にうかがうと、昔は嫁入りには欠かせなかつたとか。おせち料理や行楽のお弁当はもちろんのこと、祝い事やちよつとしたおすそわけにも使つたといいます。そして、いただいた方はきれいにふいて、「気持ち」を返すのがしきたりでした。

ある方は、実家の祝い事におはぎを重箱に詰めて贈つたところ、そのお返しに、重箱にいっぱいのお米が入つていたそうです。農家をされてるお母さんは、宇治の会社員の家へ嫁した娘への精一杯の「気持ち」をつめたのです。実家のお米はさぞ輝いていたことでしょう。

プラスチック製の使い捨て容器では、この「気持ち」を返すこともなくなりました。「めでたさを重ねる」という縁起を担ぐ重箱は、人と人の「気持ち」も重ねていたのです。

文 千種清美